

第2回公園づくりワークショップ 開催報告

平成27年11月19日(木)に第2回公園づくりワークショップ「震災遺構と次世代へ伝えること」を開催しました。震災遺構保存についての町の経緯・方針と、メモリアル公園の整備に向けた検討状況を説明した後、6つのグループに分かれて議論を行いました。「震災遺構と次世代へ伝えること」という少し重いテーマでしたが、参加者の皆さんから前向きな想いや意見が多く出され、大変有意義なワークショップになりました。

震災遺構保存に対する町の経緯・方針（須田町長より）

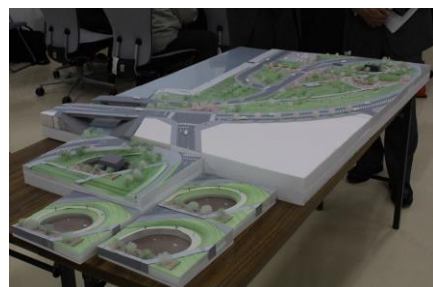
- 復興計画では、震災遺構については町民の声を聴きながら保存に努めていくと位置付けられている。
- 震災遺構の保存は、鉄筋や杭が打ってある建築物が津波で倒れたのは世界的にも例がないという学術的な観点から、災害が起きたこととその恐ろしさを伝承していくという意義もある。
- 震災当時の中学生世代の皆さんが、復興まちづくりに対する提言をした中で、遺構保存について住民の皆さんにアンケートを取っており、残すことに反対が多かった。それでも「千年後の命を守るため保存すべきだ」という提案が中学生たちから町の方にあった。
- また、私たち自身も相当悩んできたが、私たちが伝えていくべきことは何かを考えた時、女川だからこそ伝えられることがあると考え、町としては旧女川交番を遺構として保存する方向に進めたいという結論に至った。
- あの時、町は一度失われた。将来「あたりまえ」になる風景（新しい町）は、一度失われた町の上に積み上げられていく町である。もし将来、「あたりまえ」が当たり前でなくなっても、もう一度、町を築いて、人はまた歩み出さないといけない。そのようなポジティブなメッセージを女川であれば伝えていくことができると考えた。
- 前に進むためのメッセージを遺していくべきではないかと考え、旧女川交番を震災遺構として残していく方針とした。
- ただし、これは1つの考え方に過ぎない。何を伝えていかかが、一番大切なことだと思っている。
- 今日は、遺構保存に対して否定的な意見があってもいいと思っている。そのような意見も含めて、皆さんの思っていること、また、どうして何を伝えていかかを、今日は是非お話ししていただきたい。



【皆さんへのフィードバック】メモリアル公園の整備に向けたまちづくりデザイン会議での検討状況

まちづくりデザイン会議シンボル空間検討部会の小野寺部会長から、デザイン会議で検討されてきた震災遺構を含むメモリアル公園整備に向けた検討状況と、今回のワークショップで議論してほしいポイントを説明いただきました。

- 被災した交番は、震災の伝承の場でもあるため、観光バスで来ることも想定して、おおよそ40人くらいが座って話が聞けるスペースを作ろうという考えがある。
- 現案では、交番の屋根側に広めのスペースを取ってあるが、反対側の基礎部分の話が重要であるため、そちら側にスペースを取るべきだという意見もある。
- 一方で、交番を見たくないという方もいる。交番を木立ちで囲うなどのある程度の配慮もデザインしている。



- プロムナードと被災交番の位置等、動かせない部分はあるが、このデザインで確定ではなく、今日の皆さんの意見やこれからの議論を経てデザインは変わっていく。
- どのような使い方がいいのか、自分たちにとってこの交番の意義は何なのかを、今日は是非議論していただきたい。
- 何らかのメッセージができれば、我々設計チームが受け取って形を作り直すステップにしていきたい。
- また、メモリアル公園と震災遺構を一体化させるといった議論はあるが、一旦は、緑地や水路、木立ちで日常生活からは離して設計をしてある。もう少し身近にあるべきだ、もっと隠すべきという視点でも議論をいただきたい。

「震災遺構と次世代へ伝えること」 - 参加者のメッセージの紹介

「伝えたいこと」と、「それを伝えるための方法」を議論した後、最後に皆さんにメッセージカードを書いてもらい、グループの代表者から発表してもらいました。今回は中学生や県外大学生も参加し、それぞれの視点での意見や想いが出ていました。

グループ1（中高生グループ）

世界中の人々に、津波・震災の恐さ、防災の大切さ、支援のありがたさ、この3つを伝えたいと考えた。



今の女川町は、全て女川の力だけでなったとは思いません！世界中からの支援があったからこそ。その感謝と経緯を遺構の周りで示せればと思った。

グループ2



翻訳ガイド機器を設置し、どこの国の人に来てでも女川の歩み、命の大切さを伝えられるようにしたい。

建物だけじゃ言葉は伝わらない。震災があってもいい意味でも悪い意味でも人生が変わったことを、「人生180度変わったシアター」で伝えたい。

グループ3



震災や避難生活を通して得た、サバイバルや生活の知恵、防災の考え方を伝えていきたい。

町中のかさ上げが進む中、原点に戻って、あの時この辺はこうだったということをメッセージとして出していきたい。

グループ4



震災体験者がいなくなってもずっと伝承できるように、学校の防災教育として取り入れてほしい。

生きていけばまた復活できると、女川の歩みを持って世界中の人に伝えたい。

グループ5

遺構を見ただけは状況はつかめない。一人一人の生の声を語り部やDVDなどで後世に伝えていくことが大切だと思う。



未災地の方々へ、避難の重要性などをメッセージとして伝えていきたい。

グループ6



命をつなぐこと、逃げることの大切さを伝えたい。津波の高さや水の動きを視覚的に視覚的に捉えられる方法も有効。

今回の震災を通して、コミュニティの大切さを痛感した。この点も何らかの形で伝えていきたい。

～全体総評～

【町長】具体的なアイデアも含めて、胸に刺さる想いもいっぱいあった。この場所だけですべて表現していくことはできない。色々な形で住民の皆さんと一緒に進めて行くことになると思う。皆さんに自信を持って成果を示せるように専門家も交えて、これから議論を重ねていきたい。

【デザイン会議・平野委員長】遺構の周りをどうするかを外部の者が軽々しく考えることに少し躊躇があったが、今日皆さんの話を聞かせていただき、想いは同じだとわかった。震災から立ち上がってきた皆さんの強さ、美しさを伝えていくことが大切。交番を原点に、女川が立ちあがってきたのだと誇りに思えるまちづくりを進めていきたい。

【デザイン会議・小野寺部会長】そこから町が立ち上がった、そのプロセスを示す可能性もあり、支援者等の思いが詰まっているということ、改めて感じさせてもらった。出来るだけ皆さんから聞いた言葉をかみしめて形にしていきたい。

グループワーク 町民の皆さんが「伝えたいこと」と、それを「伝えるための方法」 (集約版)

伝えたいこと

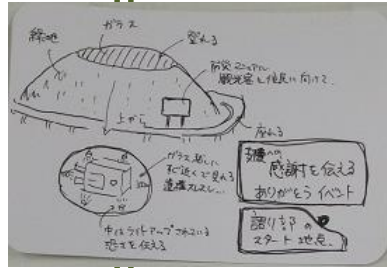
津波・震災の脅威

防災・避難の重要性、命の大切さ・鎮魂

復興への歩み (女川の底力、支援への感謝等)

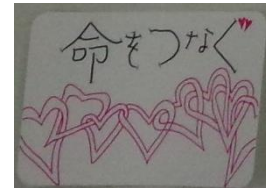
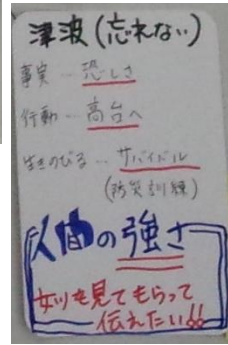
施設 (遺構保存のための整備含む)

- 交番の上を強化ガラス等で覆う (遺構を上から見られる、津波の高さがわかる、かさ上げの高さがわかる)
- かさ上げ前の地面から見上げて、かさ上げの高さや津波の高さを感じられる仕掛け
- 地盤の沈下と海との関係を見せる (満潮時には遺構の周りに水が溜まる)
- ドーム屋根の設置 (全天候型、できるだけ手を加えずに残す為に)
- 隣に震災前と同じ交番を建設 (被災交番と視覚的に比較)



【グループ6】交番の周りをらせん状にぐるぐると上り下りができ、その周りに展示されていけばいいなと思う。

- 輝望の丘に「町を見下ろしながら語る場所」を作る



付設設置

- 遺構近くに津波高の標識 (ポール・看板等) を設置。旧女川駅の階段にあった昭和の津波高の標識と同じようなもの。



- 慰霊碑 (犠牲に遭われた方の名前を刻んだ碑)
- 鎮魂のためのお地蔵の設置
- 避難経路等の案内看板の設置 (町中に)

- 震災前と震災後のまちなみの比較できるものを展示
- 支援への感謝の表現 (記念碑、支援者名の石碑・ブロック)



【グループ1】今の女川町があるのは、世界中からの支援があったからこそ。支援への感謝や震災から立ち直った経緯を、遺構の周りに設けてほしい

伝えるための方法

映像・メッセージ

- 津波や震災の様子を映像や写真で見せる
- 遺構の音声案内 (自動再生、イヤホンタイプの音声解説)
- 翻訳ガイド・文書 (英語、中国語、韓国語)
- QRコードを設置し、スマホで女川の震災前後の状況を見せる
- 津波のバーチャル体験、津波の高さ体験
- プロジェクションマッピング、アンドロイド、テクノロジーとの融合

- 遺構の周りで防災関連情報を映像等で紹介 (グッズ、災害時の対処方法含む)

- 当時の辛さ・悲しみから、少しずつ前向きになり、新たな人生が始まった。そのプロセスを遺構を周回する中でメッセージとして伝えたい。



【グループ2】「人生180度変わったシアター」。遺構の周りに震災からこれまでのプロセスを展示

取組

- 語り部による伝承、体験した話を聞かせる (月命日 (11日) での定期実施等) 紙ランタンも作成
- 紙芝居、絵本、DVDで遺す
- 震災時の様子を演劇として遺す
- 震災体験ツアー (学生向け、修学旅行生向け等)、女川の自然を生かしたキャンプ+震災ツアー
- 震災時の対処法を体験できる仕組みを確立し、町内外に発信

- 防災マップの作成
- 防災マニュアル、備蓄品の整備
- 防災・避難訓練 (訓練の際には必ず遺構に立ち寄ることも)
- 防災教育プログラムの実施 (小中高生向け、修学旅行、校外学習)
- メモリアル広場でも慰霊祭を実施
- 遺構の前でのディスカッション
- 訪れた人の意見交換ノートを設置



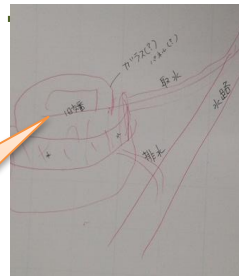
- 支援への感謝の表現 (支援の一覧化、手紙送付、感謝イベント等)
- 支援を感謝する歌の制作
- 支援をテーマにしたビデオ映画の制作

- 大規模イベントなどとの連携 (ツール・ド・東北等) による女川の紹介
- これからのビジョン提示
- タイムカプセルを遺す

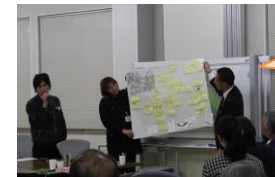
その他

- 遺構に触れられるようにする
- 遺構の自然との調和
- スポットライト、夜のライトアップ

【グループ4】遺構を見たくない人のために「水のカーテン」で隠すアイデアが出た。ガラスで囲い、水路の水を流すイメージ。



【グループ5】未災地の方にも、避難訓練等の重要性を伝えていきたい



【グループ3】震災を通して得た生き延びる術や知恵だけでなく、女川の良さも伝えてきたい